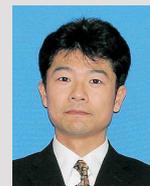


「『気候変動への適応』水災害 リスク軽減のための100年 戦略フォーラム」の開催の報告



河川研究部 水資源研究室 主任研究官 水草 浩一

(キーワード) 気候変動適応策、水災害

1. 開催目的

将来の気候変動により顕在化が想定される水災害に対応するための「適応策」についての議論は全世界的に始まったばかりである。このため、世界各国の「適応策」に関する実践的な知見を共有化し、施策へ反映し効果的に実践させるために今何をすべきかについて、幅広い議論を行う目的でフォーラムを企画した。聴講にはアメリカ、イギリス、オランダなどの海外からも含め、国内外から多くの方々にご参加頂いた。

2. 開催内容

まずサルバノ・ブリセーニョ氏から、気候変動への適応には防災・予防の「文化」の拡大が重要であり、その継続が防災だけではなく貧困の解決にもつながる、との祝辞講演を頂いた。続いて、アヴィナッシュ・ティアギ氏から「気候変動の影響と統合水資源管理」、鬼頭昭雄氏から「気候変動の影響予測に関する世界的な動きと日本の現状」の2題の基調講演を頂いた。

その後、「気候変動への適応と水災害リスク低減のための100年戦略」と題したパネルディス

カッションを行った。この中で、気候変動への適応策には「意志決定」と「不確実性」が重要なキーワードとなることが示され、将来の想定すべき外力や社会のあり方等のシナリオと、その実現のためのコストとのバランス設定の困難さや、将来目標設定値と現状でも不十分な安全確保状況との擦り合わせの困難さについて議論された。そして、地域の隠れた脆弱性を的確に把握し能動的な対応を実現させるため、施策・組織の再構築の必要性が論じられた。また、今後は既存インフラの更新の際に適応策の概念を念頭に計画・実施する必要があるとの指摘もあった。なお、本省河川局が2009年(平成21年)8月に作成した「気候変動適応策ガイドライン」に関しては、自然災害への対応と、ガイドライン適応の過程において実現する貧困の解消とのWin-Win(両得)の社会の実現に向けた、途上国を含む世界中への適用可能性が期待された。最後に、社会を素早くそのような状態にするため、各国で気候変動の脅威をより具体的にわかりやすく国民に説明するとともに、途上国に対しては国際協力が不可欠であるとの認識で議論は閉じられた。

3. おわりに

今回のフォーラムは、我が国が将来の適応策の実現に向け最先端の知見をもって活発な議論を実施している状況を世界の有識者に示すことができたことから、今後我が国が当該分野を主導するためにも非常に有意義な場となった。

表-1 講演・パネリスト一覧

サルバノ・ブリセーニョ氏	国連国際防災戦略
アヴィナッシュ・ティアギ氏	世界気象機関
ヨス・ヴァン・アルフェン氏	オランダ交通・公共事業・水管理省
エドワード・ヘッカー氏	アメリカ陸軍工兵隊
鬼頭昭雄氏	気象庁気象研究所
三村信男氏	茨城大学
沖大幹氏	東京大学
藤田光一氏	国土技術政策総合研究所